

第2章

高石市における SWC 施策の取組み

公益財団法人日本都市センター 研究員 **高野 裕作**

1. 高石市の概要

高石市は、大阪府の泉北地域に位置する人口 56,529 人 (2015 年国勢調査) の都市であり、大阪湾に面している。面積は 11.3km² と大阪府内で 2 番目に小さい市であり、またその約半分は臨海工業地帯の埋め立て地であるため、住民が居住する内陸部の面積は約 6km² とさらに小さくなる。地形は平坦で、市街地は周辺の自治体と連担しており、北から東にかけて堺市、南には和泉市、泉大津市と接しており、これに忠岡町を加えた 4 市 1 町で後述の「泉北地域鉄道沿線まちづくり協議会」が構成されている。

人口は 1985 年 (昭和 60 年) 頃をピークに減少傾向にあるが、それでも人口密度は内陸部では約 100 人 /ha と極めて高く、将来にわたっても 80 人 /ha 以上の人口密度は内陸部全体で概ね維持されるものと想定されている。

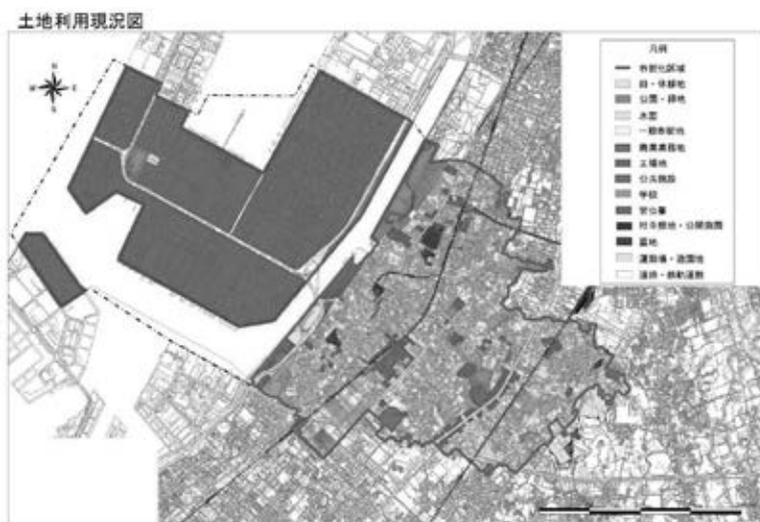


図 5-2-1 高石市の土地利用現況 (2010 年)

(出典：高石市立地適正化計画 p31)

市内には JR 阪和線および東羽衣支線、南海電鉄南海本線および高師浜線の 4 つの鉄道路線、6 つの駅があり、また隣接市にも高石市内からアクセス可能な駅もあることから、ほとんどの地域で 20 分以内に公共交通を利用可能である¹。

2. 総合計画と SWC の取組み

(1) 高石市の総合計画

現行の第 4 次高石市総合計画は、2011 年度から 2020 年度の 10 年間に計画期間としている。第 4 次総合計画以前からの都市目標として「人間都市・高石」を掲げており、それを実現するためのまちづくりの基本理念として「市民主体のやさしさと活力あふれる“健康”のまち」を定めている。

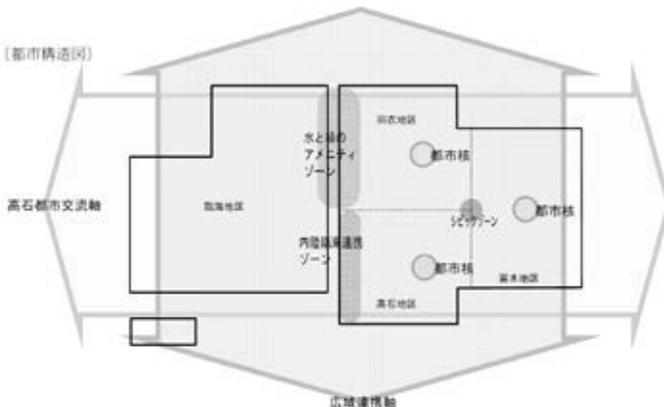


図 5-2-2 高石市の都市構造図

(出典：第 4 次高石市総合計画 (基本構想)p24)

1 立地適正化計画における「公共交通アクセス性の評価」では「公共交通の利用しやすさを表す指標で、任意の時刻に家を出て、公共交通に乗車するまでの期待時間」を算出している (立地適正化計画 p54)。

基本構想においては土地利用構想が示されている。市内6つの駅の内、利用客が多い主要駅は南海電鉄の羽衣駅、高石駅と阪和線の富木駅の3つであり、それぞれは商業施設が集積する「都市核」として位置づけられる。市役所を中心とした行政機能（シビックゾーン）はこれら3つの駅からほぼ等距離の市中央部に位置している。

(2) SWC 施策の取組みの経緯

高石市は、SWC 首長研究会に2010年より加盟し、2020年現在は副会長を務めるなど、SWC 施策に長期にわたって積極的に取り組んできた。具体的な施策や計画策定の経緯は表5-2-1に示すとおりである。

表 5-2-1 高石市の SWC に関連する施策・計画

年月	施策・項目	
2011/3	第4次高石市総合計画策定 ・まちづくりの基本理念「市民主体のやさしさと活力あふれる“健幸”のまち」	
2011/12	地域活性化総合特区の指定	2012/1
2012/3	健幸づくり教室の開始	 スマートウェルネスシティ たかいし基本計画
2013/7	南海中央線加茂地区の供用開始	
2013/11	毎日が“元気”“健幸”ウォーキングの開始	
2014/11	健幸フェスティバル&高石マルシェの開催	
2014/12	第1弾健幸ポイントプロジェクトの実施（文科省等補助事業）	
2014/12	南海中央線綾園地区 自転車道の整備	
2015/3	新村北線の供用開始	2015/3
2017/4	健幸のまちづくり条例の制定	
2017/5	高石市健幸のまちづくり協議会の発足	
2017/10	第2弾健幸ポイントの実施（地方創生推進交付金事業）	
2018/6	芦田川ふるさと広場の完成（せせらぎコース開通）	

（出典：高石市各種資料を基に筆者作成）

上述のとおり、第4次総合計画においてSWCのコンセプトである「健幸」をまちづくりの基本理念として位置づけており、2012年1月から2015年3月を計画期間として、SWC施策を推進するための市独自の計画である「スマートウェルネスシティたかいし基本計画(以下、基本計画)」を策定するなど、多様な施策・事業が展開されてきた。基本計画では、「自律的に「歩く」を基本とする“健幸”のまち「スマートウェルネスシティ」を構築することにより、健康づくりの無関心層を含む市民の行動変容を促し、高齢化・人口減少が進んでも持続可能な先進予防型社会を創る」ために、以下の3点の基本方針を定めている。

1. 『住んでいるだけで「歩きたくなる、歩いてしまう」まちづくり』により、健康づくりの無関心層を含む市民全体の日常の身体活動量を増加させることで、生活習慣病の予防やソーシャルキャピタルの向上等により、市民が健康で幸せに暮らせる社会を実現する。
2. 交通権（公共交通等による移動できる、歩いて暮らせる権利、移動権ともいう）の理念を先取りし、過度に車に依存しなくても生活できる環境づくりを推進する。
3. 市民の中でもとくに高齢層、無関心層をターゲットとした3年間の広報戦略を策定して、市民のヘルスリテラシーの向上を図ることにより、寝たきりを予防し、医療費財政に効果のある健康づくり事業への参加者数を1,000名規模にする。

高石市は大都市圏に位置する都市であり、上述のとおり鉄道の利便性が高いことから、地方圏の都市のように過度の自動車依存の都市構造とはなっておらず、パーソントリップ調査における代表交通機関も、徒歩と二輪車を合わせた割合が約55%²に上るなど、歩行

² 近畿圏（京阪神都市圏）パーソントリップ調査

を中心とした活動量が際立って小さいわけではない³。しかしながら高齢化の進展に伴う医療・介護給付の増大は全国の自治体に共通する課題であり、従前の健康増進事業への参加者は市民全体から見ると限定されていたことから、無関心層の行動変容を促す必要性が認識され、SWCのメソドロジーである科学的根拠に基づく施策立案・実行・評価・改善が求められた。

(3) ウォーキングコースの整備

これまでの施策・事業は、「健幸ポイント」や「健幸づくり教室」などのソフト施策に加え、過密な市街地における歩行環境の整備に重点が置かれ、現在では市内の広範囲を回遊可能なウォーキングコースが整備されている。これらは都市計画道路の建設や水害対策としての河川改修と併せ、道路の歩道や河川沿いの遊歩道・公園・広場として整備されている。



図 5-2-3 都市計画道路沿いに整備された歩道・自転車道(左)と健幸ウォーキングの方法を案内する看板(右)(筆者撮影)

3 平成 21 年度の国民健康保険特定健康診査より、運動習慣のある人の割合は男女ともに大阪府全体の平均よりも高かった(スマートウェルネシティたかいし基本計画 p4)。



図 5-2-4 芦田川ふるさと広場(左)と遊歩道が整備された芦田川
(筆者撮影)

市では『まちなかを歩こう! 「毎日が“元気” 健幸ウォーキング』⁴として、市内4か所の公園・広場を拠点として、自由参加のウォーキングイベントをほぼ毎日(集合場所によって異なる)実施し、整備されたウォーキングコースで多くの人が歩く事につながっている。

3. 立地適正化計画と広域連携の取組み

第1節にて既述の通り、高石市においては特に内陸の可住地に限定すれば現状において人口密度が極めて高く、将来にわたっても一定の人口密度が維持されることが見込まれており、さらに鉄道駅の密度が高いことから公共交通の利便性も高い。そのため立地適正化計画においては、風致保安林を除いて、居住誘導区域を限定して居住区域を縮小するような方針とはしていない。

4 高石市 HP(<http://www.city.takaishi.lg.jp/dekigoto/senior/kenkou/1458786835005.html>)にてその実施概要があり、日常的なウォーキングの様子は Youtube の市公式アカウントでも公開されている (<https://www.youtube.com/watch?v=WF2FDxzWbul&feature=youtu.be>)。

立地適正化計画では、高石市における課題として4点が挙げられ、総合計画などを踏まえた「まちづくりの基本的な考え方」が示され、それに対応する計画の方針として3点を挙げている。

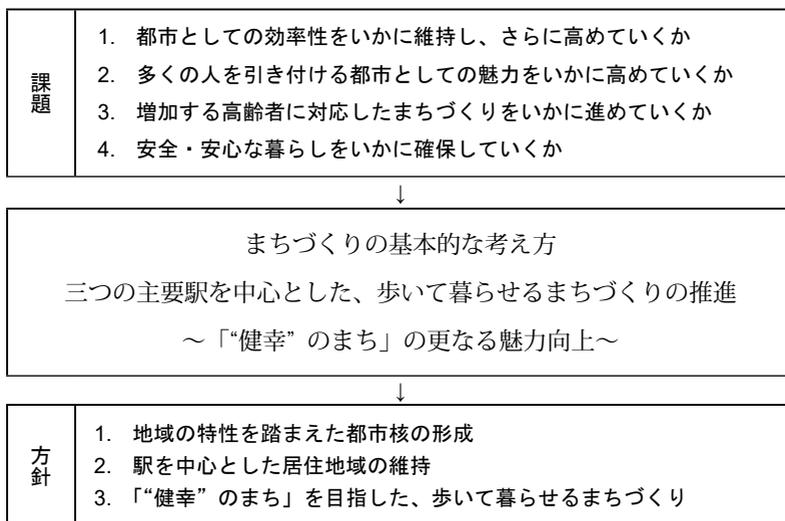


図 5-2-5 立地適正化計画における課題と方針の関係性

(出典：高石市立地適正化計画 p59-62 より抜粋)

この方針1における「地域の特性」の具体的な内容として、「周辺市町との連携・役割分担や、既存施設との整合」が挙げられている。立地適正化計画においてその取組みは明示されていないが、冒頭で述べた通り、高石市では周辺市町と連携して「泉北地域鉄道沿線まちづくり協議会」を設置し、2017年3月には「泉北地域の広域的な立地適正化の方針」、2019年3月には「泉北地域における鉄道沿線まちづくり調査分析報告書」をそれぞれ公表し、広域的な視点での都市機能、とりわけ公共施設の立地について可視化を行っている。

4. 結び

高石市では総合計画に位置づけられた方針によって、長期的に健康・SWCに係る施策・事業に取り組んでいる。市単独での立地適正化計画の策定、また周辺市町と連携した広域的な都市機能立地に関する調査・方針策定にも取り組んでいる。第Ⅲ部第2章の豊田論文にて指摘されている通り、広域連携の取組みを通じて施設配置の可視化を図ることは一定の意義があり、大都市圏にある小規模自治体の取組みの一つのモデルとなるのではないかと考えられる。

【参考文献】

- ・ 第4次高石市総合計画(2011年)
- ・ スマートウェルネスシティたかいし基本計画(2012年)
- ・ 高石市立地適正化計画(2017年)
- ・ 泉北地域の広域的な立地適正化の方針(2017年)
- ・ 泉北地域における鉄道沿線まちづくり調査分析(2019年)